



小原田小学校だより

【教育目標】心身ともに健全で正しい判断力を持ち、自主性・創造性に満ち、心豊かなたくましい児童の育成

○すすんで学習する子(知) ○思いやりのある子(徳) ○たくましい子(体)
第33号 令和2年10月8日発行

授業研究 2年1組



10月6日に算数科の授業研究を行いました。「新しいかけ算を考えよう～かけ算(1)」の単元で「答えが12になるかけ算の式をかんがえよう。」のめあてで学習しました。

まず、『たこやきが12こあります。同じ数ずつパックにつめます。どんなかけ算の式ができるかな。』という問題を考えました。ワークシートを使い、12この丸を同じ数ずつ線で囲み、いくつに分けられるか、そしてそのかけ算の式はどうなるかを自分で考えました。すると、「2つできるよ」「4つできる」などつぶやきながら意欲的に学習に取り組みました。その後、隣の友達と考えを伝え合うことをとおして、全体で話し合いました。

た。すると、『1パックに2個それが6パックで12個。式は、 $2 \times 6 = 12$ 』『1パックに4個それが3パックで12個。式は、 $4 \times 3 = 12$ 』等、いくつもの考えを全体で共有することができました。そして、学習のまとめをみんなで考えました。最後に、練習問題に取り組みました。どの子も学んだことを生かして、良くできていました。「分かった」「できた」ことを実感した後、学習感想をしっかりと書き、多くの子が発表することができました。

積極的に問題を解いたり友達と考えを伝え合ったりする姿は、大変すばらしかったです。日頃の学びの成果が表れていて、うれしく思いました。

手話教室～4年生

郡山市の出前講座として外部講師による手話教室を行いました。今回の学習をとおして、体が不自由な人のことを知り、学んだことを今後の生活にいかしていこうとする姿に感心しました。また、「やさしさ」や「思いやり」の心が育ってきていると感じうれしくなりました。

【児童の感想】

- ふだんは耳が聞こえることを当たり前のこととして生活していましたが、もし、耳が聞こえなかったらとても不安になってしまおうと思います。私は、今日の手話教室で先生方に手話を教えてもらい、少し覚えることができたので、今日の経験をいかして機会があったらちょう覚しようがいの人々を助けられたらいいなと思いました。
- 私は、手話教室で分かったことは2つあります。1つ目は、手話を五十音すべて覚えるのはむずかしいということです。私は、あいさつと自分の名前を覚えることでも大変でした。2つ目は、しょうがいのある人の生活は大変ということです。朝、起きるのはふつうの音が鳴るめざまし時計ではなく、まくらの下に、しょうがいがあるひと用のめざまし時計を置き、セットした時間にめざまし時計のしんどうで起きます。私は、目や耳が不自由な方たちの生活はいろいろなくふうがあるのだと分かりました。
- 10月6日に手話教室がありました。そのおかげで、手話が好きになりました。一番心に残ったのは、ちょう覚しょうがい者とのコミュニケーションです。理由は、6つもコミュニケーションの方法があったからです。1つ目は「手話」、2つ目は「口話」、3つ目は「筆談」、4つ目は「指文字」、5つ目は「空書」、6つ目は「身振り」です。ぼくは、手話が一番分かりやすいと思いました。理由は、早くて、分かりやすいと思ったからです。この一番分かりやすい手話でスムーズに友だちやちょう覚しょうがい者とやりとりをできたらいいなと思います。
- 私は、今まで手話というものを知りませんでした。だから、手話教室があると知ってから、とても楽しみにしていました。私が手話教室で学んだことは3つあります。1つ目は、私の名前を手話でやったことです。最初はまちがっていたところもあったけど、本のおかげで覚えられました。2つ目は、手話であいさつの使い方を知ったことです。前はおぎだけがあいさつだと思っていたけれど、あいさつも手話で表せてびっくりしました。3つ目は、耳の聞こえない人の生活を知ったことです。ふつうのめざましは音が鳴るけど、耳の聞こえない人は、めざましのしん動でおきることができると分かりました。今日もらった手話の本でもう少しちゃんと覚えてこれから道ばたで体の不自由な人と会ったら、進んで手助けをしたいです。



